

## 京都市交通局との意見交換会

日 時 平成30年7月25日(水) 午前10時00分～午前11時00分  
場 所 京都市交通局 入札室

出席者(敬称略)

京都市交通局

企画総務部 財務課 担当課長

同課 契約係長

同課 主事

柴田 礼輔

白倉恵美子

武本 晴美

一般社団法人京都電業協会

会 長 小野 昭

副会長 木下 博之、小滝 寛

常任理事 進藤 久和

専務理事 小林 章一

理 事 植田 司郎、佐伯 祐左

(事務局) 齋藤 順

(司会者 一般社団法人京都電業協会 理事 佐伯 祐左)

1. 京都電業協会挨拶 会長 小野 昭
2. 京都市交通局挨拶 企画総務部 財務課 担当課長 柴田礼輔
3. 京都市交通局からの要望・通知事項

(1) 社会保険未加入対策について

- ① 京都市では、全部局で社会保険未加入対策を推進しており、平成30年7月より「労働関連法令遵守状況報告書」提出対象外の工事(予定価格5千万円以下)についても、全ての下請事業者の社会保険適用状況を施工体制台帳等で確認することとした。
- ② 社会保険未加入者を確認した場合には、工事担当課から受注者への加入指導を行うとともに、京都市から建設業許可担当部署※へ通報する。
- ③ 請負代金内訳書に法定福利費概算額の明示を求めている。  
各事業者におかれては適切な対応をお願いしたい。

(協会補足)

※建設業許可担当部署…京都府知事許可の場合 建設交通部指導検査課

#### 4. 京都電業協会からの質問・要望事項

(1) ご発注に関する事項について

(協会から)

- ① 景気の変動に関わらず一定数の発注を維持して頂き、発注時期についても偏りのないようお願いしたい。
- ② 今年度及び次年度以降の主な電気設備工事の発注予定をお聞かせ願いたい。

(京都市から)

- ① 工事発注が一定の時期に偏らないよう、発注の平準化に努めている。
- ② 東西線太秦天神川駅までの延伸開業の後、新たな地下鉄路線新設・延伸の予定がなく、当面は補修工事が主体となる。本年度は電気工事では16件程度予定しており、詳細は当局ホームページの発注見通しを参照願いたい。
- ③ 次年度以降の大規模工事計画については、現時点では予算が確定しておらず、公表可能な情報は無い。

将来の改修計画(想定)は、駅照明設備のLED化に伴う電気設備工事が考えられる。既に計画又は施工した駅以外については、経営状態と予算を考慮の上、今後必要な工事を計画し実行していきたい。

## (2) 地元業者の育成について

(協会から)

- ① 電気設備工事の分離発注、並びに地元中小企業への発注を今後とも継続頂きたい。
- ② 今後予定されている大規模工事においても、地元中小企業によるJV手法の採用や工事の細分化、分離発注等により、地元中小企業の参入機会を最大限確保して頂きたい。
- ③ 施工実績要件を付す必要がある入札の場合には、施工実績要件の緩和や、大手企業＋地元中小企業によるJV手法の採用により、1社でも多くの企業が施工の機会を得られるよう、お願いしたい。

(京都市から)

- ① 公契約基本条例により、原則として市内本店企業へ発注することと定めている。
- ② 信号、鉄軌道など鉄道運行に関わる特殊工事については施工実績を求めざるを得ないと考えている。一方で、市内中小企業への発注を通じた市内振興を図る必要性も考えられるため、案件ごとに工事担当課と調整している。

## (3) 低入札対策について

(協会から)

- ① 低入札対策制度の現状(運用状況)についてお聞かせ願いたい。

(京都市から)

- ① 当局では、WTO案件を除き最低制限価格制度を適用しており、市内中小企業への発注、ダンピング対策に取り組んでいる。

- ② 当局の平均落札率、発注件数については下記のとおり。

年 度	平均落札率	発注件数	
		全業種	電気工事
平成28年度	93.75%	56件	14件
平成29年度	92.48%	52件	16件

(4) 施工中の諸問題について

(協会から)

- ① 設計図書の内容、見積数量などに疑義を感じたとき、相談ならびに契約変更柔軟に応じて頂きたくお願いしたい。当協会では会員へのアンケートを実施したところ、貴局以外の事例も含まれるが、監督員と現場代理人の打合せ等の相談に適切に応じて頂けない事例が有る旨、協会員からの「声」が寄せられている。
- ② 施工現場での「週休二日制」の推進のために何が必要か、お聞かせ願いたい。

(京都市から)

- ① 平成30年4月より、1億円以上の工事で質疑応答の機会を設けている(従前:2億円以上→範囲拡大)。今後も工事の適切施工が図られるよう努めたい。要望があったことについては工事担当課に情報提供しておく。
- ② 「担い手となる若手の確保」に向け、国が示した計画を踏まえ、本市の各部局と協議して改善策を考えていきたい。

5. 閉会挨拶 京都電業協会 副会長 木下 博之